

香川高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	公民 I	
科目基礎情報							
科目番号	0015			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電気情報工学科 (2018年度以前入学者)			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	教科書：香川勝俊編『教養の政治学・経済学』（学術図書出版社）						
担当教員	河野 通弘						
到達目標							
1. 政治について理解できて説明できること 2. 憲法について理解できて説明できる 3. ミクロ経済とマクロ経済について理解できて説明できる							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1			政治について十分な説明ができる	政治について相当な説明ができる		政治について要点も説明できない	
評価項目2			憲法について十分な説明ができる	憲法について相当な説明ができる		憲法の要点も説明できない	
評価項目3			経済問題について十分な説明ができる	経済について相当な説明ができる		経済の事象が説明できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	個人と国家・社会との関わりについて理解を深め、社会人として必要な基本的な知識を習得する。						
授業の進め方・方法	政治経済の諸システムを理解してもらうためそれぞれの項目ごとに必要な用語や知識の説明を中心に行う。						
注意点	社会とのつながりができたとき、これほど面白い分野はないと思われるので、学校ではわからなくとも辛抱強く授業についてきてください						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	政治と権力		政治と権力の考え方が説明できる		
		2週	近代国家		近代国家の成立・や要素が説明できる		
		3週	社会契約説		ホッブズ、ロック、ルソーの構想が説明できる		
		4週	民主政治の基本思想		法の支配や議会政治、権力分立が説明できる		
		5週	イギリスとアメリカの政治制度		議院内閣制と大統領制の差異が説明できる		
		6週	日本の権分立制度		国会、内閣、裁判所の役割が説明できる		
		7週	日本の政治制度		選挙制度や地方自治が説明できる		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	試験の概説と今後の予定（政治）		憲法の基本について説明できる		
		10週	憲法の意義		近代憲法と現代憲法の特徴が説明できる		
		11週	大日本帝国憲法		明治憲法の特徴、大正デモクラシーが説明できる		
		12週	日本国憲法の制定過程		ポツダム宣言から憲法制定までの論点が説明できる		
		13週	日本国憲法と国民主権		憲法の諸原理や国民主権原理が説明できる		
		14週	平和主義の原理		憲法第9条の解釈とその問題点が説明できる		
		15週	基本的人権の尊重原理		人権の種類、公共の福祉について説明できる		
		16週	後期末試験				
後期	3rdQ	1週	財と経済学の意義		財の希少性と経済学の必要について説明できる		
		2週	経済主体と経済循環		家計、企業、政府の役割、相互関係について説明できる		
		3週	資本主義経済の発展と経済思想		資本主義の発展、それを支えた経済理論が説明できる		
		4週	1930年代のアメリカ経済		不況による政府の役割の変化が説明できる		
		5週	失業者対策の経済学		スミスとケインズの主張およびその時代が説明できる		
		6週	市場機構と自由競争		市場の役割と完全競争市場の条件が説明できる		
		7週	価格の役割と価格決定メカニズム		需要と供給の法則と資源の最適配分が説明できる		
		8週	後期中間試験				
	4thQ	9週	試験解説と今後の予定（経済）				
		10週	市場の機能		市場の役割が説明できる		
		11週	市場の失敗		市場の失敗の類型が説明できる		
		12週	貨幣と通貨制度		貨幣と通貨、通貨制度が説明できる		
		13週	金融政策と日本銀行		金融の意味、金融政策が説明できる		
		14週	財政の諸問題		財政の役割、財政政策が日本の租税制度が説明できる		
		15週	国民経済と国民所得		国民所得、三面等価あ説明できる		
		16週	後期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。		3	

			現代社会の 考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。			3	
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100	
基礎的能力	90	0	0	0	0	0	90	
専門的能力	10	0	0	0	0	0	10	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	